

事業活動報告 NO.5

令和4年度（2022年度）
「学生による社会スタディ」開催報告

オンラインによるテレビ会議形式で開催した結果、グループ討議を含む「全プログラム参加」と「有識者の情報提供に限定参加」を合わせて、42大学91名が参加した。

1. 開催目的

全国の国立・公立・私立の大学1・2年生を対象に、情報通信技術を活用した新しい価値創造の重要性に気づき、早い段階から発展的な学びが展開できることを支援する。

2. 開催日時・場所

令和5年2月8日（水）にZoomによるテレビ会議形式でアルカディア市ヶ谷から配信した。

3. 参加者の構成

(1) 全プログラム参加者（51名）

参加大学は、国立3大学、公立1大学、私立17大学の21大学。参加者の内訳は、1年生49%、2年生51%、男性51%、女性49%、人文社会系27%、法学系7%、経済・経営系17%、情報・理工系20%、メディア系20%、家政系3%、医療系5%であった。

(2) 情報提供のみ参加者（40名）

参加大学は、国立1大学、私立20大学の21大学。参加者の内訳は、1年生38%、2年生62%、男性58%、女性42%、学部別では人文社会系23%、法学系5%、経済・経営系40%、情報・理工系15%、メディア系13%、家政系3%、医療系3%であった。

4. プログラム概要

12:00	Zoom接続確認
12:30	開会挨拶
12:40	社会スタディの進め方について
13:00~13:50	【有識者からの情報提供と意見交換】 1. 「未来は君たちの手にある-DXやメタバースなどによるイノベーション-」 須藤 修 氏（中央大学国際情報学部教授、東京大学大学院特任教授） デジタル技術が産業・生活・文化に至る社会のあらゆる分野に浸透し、地球規模で、個人の幸せや 社会の豊かさを実現する価値創造に結び付ける取り組みが進展している。世界の主流は、DX(デジタル変革)に加えてVX(現実世界と仮想世界を融合する変革)に大きく変わろうとしている。 未来は君たちの手にあるので、文理の境界を超え、新しい社会の創造に向けたスキルの習得や社会的実践を通じてイノベーションにチャレンジして欲しい。
13:50	休憩
14:00~14:50	2. 「意味のイノベーションによるアントレプレナーシップへのチャレンジ」 小西 一有 氏（合同会社タッチコア代表、九州工業大学客員教授） グローバルなデジタル変革の中では、従来の「問題解決のイノベーション」では競争に勝てない。大事なことは、「モノからコト」へのような人々の生活の豊かさや幸せ感をもたらす「意味のイノベーション」を実現することである。そのためには、既成概念、固定概念を覆すような発想とそれを実践するマインド、すなわち「起業家精神」の訓練が重要であり、学生時代から失敗をおそれずにチャレンジして欲しい。
14:50~15:40	3. 「サイバーとフィジカルを融合した学びでデータ革命にチャレンジ」 大原 茂之 氏（東海大学名誉教授、株式会社オプテック代表取締役） 日本は新しい変化への対応が苦手な昔の成功体験から抜け出せないでいる。その要因の一つとして、領域ごとの活動にとどまっており、サイバー上でデータを横断的に活用し、物事を予測してリアルの世界で構想を実現していくことが遅れていることがあげられる。データ駆動型の社会で活躍するには、教室の学びだけでなく、サイバー空間を活用して多くの分野と交わり、データを科学的に活用し、新しい価値創造に主体的に行動できることが求められる。
15:40	休憩
15:50~16:50	【気づきの整理と発展】 1. 気づきの整理と発展のためのグループ討議 ※グループで「情報通信技術を活用して未来社会にどのように向きあうか」について考える。
16:50~17:30	2. 気づきの発表 ※グループごとにまとめた結果を代表者が発表する。
17:30	閉会

V. 参加者の声 (回答者29名のアンケート集計)

1. 社会スタディの内容は いかがでしたか 【複数回答不可】	【有効回答29名を集計】	①期待通り	②ほぼ期待通り	③どちらともいえない	④期待外れ
	回答数	19	5	3	2
	回答割合	65.6%	17.2%	10.3%	6.9%
	※ 「期待通り」が65.6%、「ほぼ期待通り」が17.2%であり、82.8%の参加者から評価をいただいた。				
<ul style="list-style-type: none"> 最新の社会の情報を分かりやすく説明いただき刺激的で大変役に立った。分かりやすいプログラムで良かった。 自分が知らない情報や世界の動向など、貴重なお話を聞くことができ良い学びになったが、意見交換(質疑)の時間増やして欲しい。 有識者の情報提供が非常に有意義であったが、時間が少ないのもっと増やした方が良いと思う。今後もこう言った機会を設けて欲しい。 AIの最新技術動向(Chat GPTなど)AIの進展やイノベーションに関する話は想像していたより興味深い内容でとても良かった。 日本の情報化のための問題点やメタバースについての話は興味深く貴重な経験で非常に良かった。 有識者の情報提供、意見交換、他大学の学生との意見交換は大変貴重で有意義な時間だった。 大学の授業では聞けない有識者の情報提供は期待以上の内容であった。ここでしか得られない貴重な経験を得ることができた。 					

2. 社会スタディで役立った プログラムは何でしたか 【複数回答可】	【有効回答29名を集計】	①有識者の情報提供	②有識者との意見交換	③他大学の学生との意見交換	④その他
	回答数	25	6	8	0
	回答割合	64.1%	15.4%	20.5%	0.0%
	※ 「有識者の情報提供」が64.1%、「他大学の学生との意見交換」が20.5%であった。				
⑤その他(主な意見) <ul style="list-style-type: none"> 情報提供は、自分が知らない情報や視点で驚くような視野の広さを学ぶことができ、今後の学び方を考えることに大変役に立った。 有識者の情報提供は当初想像していた内容よりも深く、とても興味深い内容であったり、将来のビジョンを考えるのに役立った。 須藤先生の情報提供は、テクノロジーの発展と速度を実感しワクワクさせる内容であり、今後の学び方を考えていくきっかけに役立った。 有識者の情報提供では斬新な視点で、社会の動向を分かりやすく説明いただき大学での学び方や自分の考え、行動を考え直す機会になった。 意見交換ではもう少し踏み込んだ議論を期待したが、議論が表層的な部分で止まってしまう期待していたレベルまで行かなかった。 意味のイノベーションは自分の概念を覆された。文系の自分にも分かりやすい説明で、今後の考え方を考える意味で大変有意義であった。 グループワークで「他大学・専攻の異なる学生」と意見交換し、自分の力や欠点なども確認できたことがとても有意義だった。 					

3. 社会スタディを何で 知りましたか 【複数回答可】	【有効回答29名を集計】	①大学の紹介 (Web・掲示板等)	②教員の紹介 (授業・LMS等)	③友人、先輩の紹介	④その他
	回答数	12	14	3	0
	回答割合	41.4%	48.3%	10.3%	0.0%
	※ 募集の周知は「教員の紹介(授業・LMS等)」が48.3%、「大学の紹介(Web等)」が41.4%であった。				
⑤その他(主な意見) <ul style="list-style-type: none"> 大学の案内(掲示板)で参加したが、非常に役に立った。 参加者が法学部など人文科学系の学生が多いと感じた。もっと多様な学部が参加することで議論も活発になるのではないかと。 授業やメールなどを通じて教員からの紹介があり参加した。 					

4. 社会スタディは、貴方の 学びの仕方や将来を考える きっかけになりましたか 【複数回答不可】	【有効回答29名を集計】	①きっかけになった	②なった気がする	③どちらともいえない	④きっかけにならない
	回答数	14	12	3	0
	回答割合	48.3%	41.4%	10.3%	0.0%
	※ 48.3%が「きっかけになった」、41.4%が「なった気がする」であり、約90%が学び方や将来を考えるきっかけになったと回答。				
⑤その他(主な意見) <ul style="list-style-type: none"> 自分の学び方に最も影響を与えたのは、「意味のイノベーション」でした。革新的なアイデアは、常識として存在してきた「意味」を覆す発想であり、革新的なアイデアを分析するときは今までの常識とそのアイデアによって変化した常識は何かを考えて見るようにしたい。 物事の視野を広げられ、考えの方向性が今までと変わりそうだと感じている。非常に役に立った。多面的な考えを身につけたい。 Chat GPTなどの最新技術が想像を超えて進化していることに驚き、批判的思考や常識に囚われないことなどを考えるきっかけになった。 情報提供を通じて、何が社会で求められるのか、今後どうあるべきかを考えるための知識や示唆が得られ、将来を考えるきっかけになった。 今までは答えを見つけようとする思考法だったが、いかに最善策を見出せるかというように思考を変えることができたと思う。 漠然としていた自分の将来を考えるきっかけになり、将来像を話し合う中でより明確になった。 					

5. 今後取り上げてほしい テーマ、進め方、実施時期	<ul style="list-style-type: none"> 起業家志向などを詳しく掘り下げるテーマ、例えば起業するための資金調達の方法などを取り上げて欲しい。 グループ討議で、ビジョンを持って周りに伝え、協調してまとめることを体験したので、次のステップでワークショップを計画して欲しい。 内容、進め方、実施時期とも現在の進め方で良いが、質問時間が少ないので有識者との意見交換の時間を増やして欲しい。 Chat GPTなどAIの最新技術動向や人間中心のAI社会に向けた課題なども取り上げて欲しい。 有識者の情報提供の時間が短いのが残念、有識者の話をじっくり聞いて一人一人と意見交換できるようにすることを望みます。 有識者を絞って一つのテーマに時間をかけ、深くテーマを掘り下げるようなことを考えることも検討して欲しい。 				
-------------------------------	--	--	--	--	--